



2006年3月31日 第26号

# JSSH NEWS

## 日手会ニュース

発行：日本手の外科学会  
広報委員会

### 第49回日本手の外科学会の 開催にあたって

第49回日本手の外科学会  
会長 長野 昭  
(浜松医科大学整形外科)

#### 目次

- 第49回日本手の外科学会の開催にあたって
- 2005年度 JSSH-ASSH Traveling Fellow 報告記
- 平成17年度 香港トラベリングフェロー 報告記
- ハンドギャラリー(児島コレクション)
- 各種委員会報告
- 第2回日伊ハンドクラブへのご招待
- 第6回 APFSSH のご案内
- お知らせ =学会案内=
- 編集後記

第49回日本手の外科学会学術集会を平成18年4月20日(木)、21日(金)の2日間、浜松にて開催させていただくこと、誠に光栄に思っております。

浜松は本州の中央にあり、東京からも大阪からも新幹線ひかりで1時間半、名古屋からはひかりで30分、こだまで45分で、会場のアクトシティ浜松は浜松駅に隣接しており、また駅周辺には沢山のビジネスホテルがありますので、交通、宿泊の点ではそれほどご迷惑をおかけすることは無いと思っておりますが、お早めのご予約お願いいたします。

さらに、今までは学術集会の前日に評議員懇親会を開催しておりましたが、今回はこれを会員皆様に参加していただける前夜祭に変更して会費1000円で、4月19日(水)の評議員会終了後18時30分から会場近くのドイツビアレストラン「マイン・シュロス」で全員懇親会を開催いたします。ぜひ学会前日に浜松にお出でになられて楽しいひとときを過ごされますことを願っております。

今回の学術集会のテーマは「末梢神経麻痺の治療戦略」とさせていただきました。過去には神経障害に関する発表が発表演題の1/3以上を占めたこともありましたが、最近では減少傾向にあります。これは先人の努力により末梢神経の研究がかなり進み、新たなbreak throughを探し求めている段階と思います。そこでこの機会を契機に末梢神経障害について新たに考え、新たな出発点となることを祈って、今回のテーマといたしました。

招待講演としましては、今回のテーマに合わせ、米国のMichael B. Wood教授、英国のRolfe Birch教授、韓国のPoong Taek Kim教授、中国のJianguang Xu教授、タイのPanupan Songcharoen教授、およびシンガポールのAymeric Lim先生に末梢神経麻痺の治療戦略についてお話しいたします。

シンポジウムとしては、「末梢神経再生の基礎的研究の進歩」、「末梢神経麻痺の治療の進歩」、「Musician's hand」、「手関節尺側部痛の診断と治療」と「手の腫瘍の診断・治療の進歩」、パネルディスカッションとして、「母指CM関節変形性関節症」、「伸筋腱断裂の手術」、「前腕両骨骨折の治療と問題点」と「肘不安定症の診断と治療」を企画いたしました。また人気が高いビデオシンポジウムには「神経修復術」と「複合組織移植」を取り上げました。いずれも日常診療に役立つ発表、討議がなされると確信しております。

今回の一般演題の応募数は例年より60-100題多い、過去最多の460題でした。この沢山のご応募に対する対応として会場数を増やして採用率を例年通りにすることも考えましたが、会場数を増やすと聞きたい演題が聞けなくなりますので、会場数は例年通り6会場にすることにしました。その結果、一般応募演題からの採用は341題で、採用率は74.1%となりました。不採用となった先生方には誠に申し訳なく思っております。この場を借りてお詫び申し上げます。

次に、採用演題の発表形式については、基礎演題および画像診断はじっくりみていただいた上で討論の方が良いと考えポスターとしました。また採用数が多かった、橈骨遠位端骨折(36題)、手根骨障害(27題)と手根管症候群(26題)は一部を口演とポスターに振り分け、他の分野はすべて口演としました。有意義な発表とホットな討論を期待しております。

なお、学術集会期間中に第45回手の先天異常懇話会と第29回末梢神経を語る会が開催されます。また、今回から春期教育研修会は日本手の外科学会の主催で4月22日にアクトシティ浜松の中ホールで開催され、さらに同日に第18回日本ハンドセラピィ学会学術集会が開催されます。

浜松は近くに浜名湖を擁し4月は気候もよく、うなぎのみでなく海の幸に恵まれた美しいところですので、多くの先生方のご参加を心からお待ちしております。

## 2005年度 JSSH-ASSH Traveling Fellow報告記

大阪市立大学整形外科 香 月 憲 一  
 済生会呉病院整形外科 砂 川 融

私たちは2005年度のJSSH-ASSH Traveling Fellowshipに選ばれ、連日40度の記録的な猛暑に見舞われた灼熱の地San Antonioで開催されたASSH総会を皮切りに、途中ハリケーン・リタの脅威にさらされながら、最高気温10度を切るRochesterまで約3週間アメリカの中部を旅してきましたのでご報告いたします。今回は訪問先をSan Antonio Hand Center, University of Texas Galveston Medical Branch, Washington University, Mayo Clinicの4カ所にしぼり、米国手の外科医との間で“fellowship”の本来の意味でもある「親睦」を深めて参りました。この報告記の前半2施設は香月が、後半2施設は砂川が担当いたします。

### ★ San Antonio Hand Center (San Antonio, TX)

San Antonio Hand CenterのトップはGreen's Operative Hand Surgeryの編集者であるGreen先生です。69歳とおっしゃっていましたが、まだまだ現役で精力的に働いておられました。Green's Operative Hand Surgeryの編集者の一人でもあるPederson先生もこのスタッフのお一人で、マイクロサージャリーの第一人者でもあります。いかにもテキサス人らしいお人柄だそうで、初日の夜ご自宅でのホームパーティーに招待され、おいしいメキシコ料理をごちそうになりました。San Antonio Hand Centerは手の外科の常勤医が5人、非常勤医1人(かの有名なDobyns先生)、Handfellowが4人という構成です。外来、手術室、病棟、医局などが全て一つの建物の中にあり、組織としてはかなり独立していて融通が利くようで、非常に働きやすそうな印象を受けました。病院訪問初日の朝は砂川先生が腱損傷における三次元CT画像の話題を、2日目の朝は私が実物大立体模型を使った手の外科術前計画の話題をそれぞれ講演し、ともに好評でした。

### ★ *University of Texas Galveston Medical Branch (Galveston, TX)*

ご記憶の方もおられるかと思いますが今年のASSHの総会のところはハリケーン・リタが連日トップニュースで、Galvestonは町全体が水没してしまうのではないかと懸念されていました。リタの前にはNew Orleansの町を水没させたカトリーナのニュースが連日放映されていましたし、Galveston自体1900年にやはりハリケーンで歴史的な大災害を被ったという過去もあり、そもそも私たちがGalvestonにたどり着けるのが心配でした。GalvestonのホストのViegas先生自身も家族を連れてハリケーンから避難してSan Antonioに来られており、学会場でお会いしたときは自分もどうなるかわからないとおっしゃっていましたが、何とか無事Viegas先生とGalvestonで再会することができました。Viegas先生が以前からNASAの宇宙飛行士の手袋の開発に関するアドバイザーをされておられた関係で、NASAに連れて行ってもらったことは非常にいい経験になりました。実際に真空状態で宇宙飛行士の手袋を着けて作業するトレーニングを体験させていただきましたが、宇宙空間で作業できるように宇宙服は非常に重く頑丈にできていますので作業の後は前腕以下が非常に疲れます。腕だけでそのようなので、宇宙飛行士になる訓練というのは相当に大変なものだろうということが想像できました。Hand Conferenceでの講演も無事終了し、次の訪問地St. Louisに向かいました。

### ★ *Washington University (St. Louis, MO)*

St. Louisという町はこれをくぐると西がアメリカの西部であることを示す大きなアーチがシンボルで、テキサスとは全く趣を異にするヨーロッパ調の街です。Washington大学整形外科のトップはRichard Gelberman先生です。ここにはその他Journal of Hand SurgeryのChief EditorであるPaul Manske先生や、形成外科のトップであり末梢神経の研究で有名なSusan Mackinnon先生、肩・肘がご専門のKen Yamaguchi先生がおられます。到着した日の夜は築100年を超えるMackinnon先生の邸宅に招待していただき、Hand Groupの先生方と食事をともにさせていただきました。ここでは整形外科と形成外科に各々手の外科スタッフが4名と、fellowが2名、そのほかresidentが数名という構成でした。病院見学では、早朝のカンファレンスから始まり、神経損傷や手関節疾患が中心のGelberman先生の外来やManske先生の先天異常手の手術を主に拝見いたしました。ご高名な先生ばかりで今回の訪問先では最も緊張していたのですが、どの先生にも非常に懇意にいただき、感激の毎日を送ることができました。特に最終日の夜、パーティーの後に、滞在中病院ばかりで市内見学をする時間がなかったことを気にされたManske先生が、自ら車を運転して市内観光に連れて行っていただいたのは非常に感動しました。

### ★ *Mayo Clinic (Rochester, MN)*

最後に訪問したのは私が以前留学していたMayo Clinicです。前日までの気候とはうってかわり、徐々にMinnesotaの寒さを体験することから始まりました。ここでは主にRichard Berger先生がお世話して下さり、香月先生はBerger先生のご自宅に、私は私のボスで現在はHand DivisionのChiefをされているAllen Bishop先生のご自宅にホームステイさせていただきました。6年ぶりの訪問で街自体に大きな変化はありませんでしたが、Clinicに新しく大きなビルが加わっていたこと、私がいた当時はBishop先生が一人で行っていた腕神経叢損傷の治療が今は3人のチームとなり、年間約200症例もの手術を行っているとのことには驚かされました。外来、手術見学等させていただきましたが、今回の訪問先の中では明らかにここには興味のある、治療するのに闘志の湧いてくるような患者さんが集まっているという印象を受けました。Berger先生ご夫妻には非常にお世話になりましたが、お二人とも日本では手の外科の会員の方に非常に良くしていただくので、そのお返しであるというようなことを言っていました。

気温40°のTexasから0°のMinnesotaまで3週間の移動は、途中疲れが出ましたが非常に有意義なものでした。学会のFellowというのは明らかに待遇が違い、Fellowに選ばれることが名誉なこと

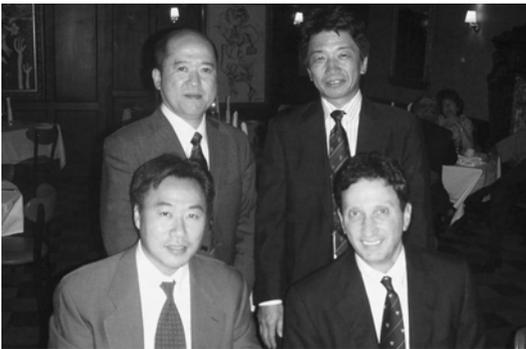
あると同時に Fellow に訪問されるのも名誉なことであると言っていました。訪問先全てで Home Party に招待され、教授自ら送迎をしていただく等感激の連続でした。また Texas, Saint Louis, Minnesota と各々に違った文化があり、その先生方はその地が No.1 であるという誇りを持って生活を送り仕事をしておられました（お国自慢です）。今回の訪問の目的の一つに若い連中と交流するというのがあったのですが、十分とは言えないまでも多くの Hand Fellow たちと交わることができました。また、各々の施設で講演する機会をいただき、どの施設でもかなり興味を持っていただいたのも有意義なことでした。非常に楽しく有意義な訪問をすることができましたが、これもひとえに中村理事、水関国際委員会担当理事、金谷国際委員会委員長をはじめとする日手会の先生方のお陰と感謝致しており、この場をお借りして御礼申し上げます。



San Antonio にて、Green 先生を囲んでの夕食会



Galveston にて、講演の後 Viegas 先生を囲んで



St. Louis にて、Gelberman 先生と Yamaguchi 先生



Mayo Clinic にて、Hand Division の先生方

自衛隊中央病院 整形外科  
**尼子雅敏**

このたび、第5回日本手の外科学会・香港手の外科学会 Exchange Traveling Fellow に選出され、5月18日から23日までの日程で香港を訪問しました。4月に反日運動デモが中国全土で繰り広げられた直後で、現役自衛官の身分で渡航許可が降りるかヤキモキしましたが、5月に入って急速に鎮静化して今回の訪問が実現しました。第18回香港手の外科学会は Dr. W.Y. Ip を会長として5月21・22日の2日間香港大学内の大ホールで開催されました。Complex hand trauma, Flexor tendon injury, Arthritis の symposium と Lecture 2, Free paper 2 の内容で、1会場にて熱い討議が繰り広げられました。日本人は私一人だけでしたが、“骨形成不全症の上肢変形の機能と治療戦略”について口演し、積極的にディスカッションに参加し、日本人の存在をアピールして参りました。招聘講師は米国から Journal of Hand Surgery チーフ・エディターの Manske 教授と Mayo Clinic の Beckenbaugh 教授、そして韓国ソウルから Yonsei 大学の Hahn 教授を迎え、学会のみならず Workshop や手術など貴重な体験となりました。香港の先生方は一昨年の大阪の APFSSH、私の勤務地・札幌雪祭り観光など頻りに訪日されており、日本の医療事情にも詳しく、意気投合して友好的に意見交換できました。学会後の懇親会では香港中文大学の Dr. Ho のハーモニカ演奏が披露され、世界コンクール優勝の腕前に圧倒されました。

最後になりましたが、今回のフェローに推薦いただきました防衛医科大学校 根本孝一 教授と札幌医科大学 青木光広 助教授、そして貴重な経験を与えていただきました日本手の外科学会 中村蓼吾 理事長、ならびに国際委員会の水関隆也 理事、金谷文則 委員長に厚く御礼申し上げます。



## ハンドギャラリー(児島コレクション)Ⅶ

埼玉成恵会病院・埼玉手の外科研究所

児島忠雄

### 5. 生活の中の手

#### その2. 生活用品

キーホルダー、ドアノッカー、栓抜き、喫煙に必要なパイプ、ライター、灰皿など、花瓶、小物入れ、針入れ、ブックスタンド、ペーパーホルダー、ペーパーナイフ、孫の手など、生活用品としての手の形のもが沢山作られました。

ドアノッカーは6点が展示されていますが、スペインの東部ヘローナで1780年頃作られたものはバンクーバーの骨董店で求めたものです(写真左)。パイプは19世紀中頃の英国のもので(写真左から2番目)。もう1点、オーストリア製のものもあります。ライターは8点が展示されていますが、手に持ったタバコの先端が点火されるようになっている19世紀のフランスのものがあります(写真中央)。ペーパーホルダーの11点があります。上に突き出た鳥の羽を横に倒すと、ヴィクトリア朝期に特徴的である優雅なドレスの袖口の手が紙片を挟むような手の混んだ仕組みになっているものもあります(写真右)。孫の手は日本の専売ではありません。フランスの象牙製のものやドイツ・マイセンの陶磁器製の贅沢なものもあります(写真下)。しかし、「孫の手」とは「背中搔き」(英語では back-scratcher, ドイツ語では der Rückenkratzer) に比べて、なんと情緒豊かな表現ではないでしょうか。



## 各種委員会報告

### 教育研修委員会

委員長 田 崎 憲 一

日手会教育研修委員会は8名の委員、田嶋 光、坪川直人、木森研治、西川真史、中尾悦宏、根本孝一、鈴木 康と一昨年から委員長をお引き受けした私の8委員と、担当理事の斎藤英彦、アドバイザーの土井一輝の先生方、計10名で構成されております。

教育研修委員会の活動は、教育研修会のテーマ・講師の推薦・会場の確保とビデオライブラリーの制作が主なものです。平成15年9月の第9回秋期研修会（東京・サンケイホール）から秋期研修会は当委員会が担当して行うこととなり、また、本年の浜松での第49回日手会学術集会（長野 昭会長）翌日の第12回春期教育研修会から春期も当委員会が担当して行うこととなり、会場の設定・共催の企業など周辺の準備作業も増えています。また日手会学術集会でのビデオ演題が増加すると、ライブラリーに収載すべきビデオのチェック・修正の依頼などが増えて忙しくなります。

昨年春の下関での第48回日手会翌日の第11回春期教育研修会は学術集会会長（土井一輝先生）が主催する最後の研修会でした。講師は各分野のトップレベルの先生方をお願いし、春期研修の目的である advanced level の充実した会であったと思います。この時の委員会で、翌年春の研修会の講師・テーマの大枠が決められ、各講師の内諾を得る作業があり、理事会で承認され、第12回春期教育研修会の内容・会場・共催などが決められて来ました。

第11回秋期教育研修会は昨年9月3日(土)・4日(日)に九大教授岩本幸英先生のお力添えで九州大学医学部百年講堂を会場とし、講演は手の外科の医療保険、保存的治療などを含む広い分野から構成され、久光製薬との共催で行われました。初日の夕方の症例検討会は、飲み物を片手に和やかに行われ時間が過ぎるのを忘れるほど盛り上がりました。肩関節学会と日程が重なり、出席者が例年より少なかったのが残念でした。9月4日の委員会で、次回第12回秋期教育研修会の講師の候補選びが行われ、9月、10月は候補の講師の先生方と連絡を取り合い、大体のプログラムの元が出来ました。

浜松で行われる第12回春期教育研修会も準備が順調に進んでいますが、今回から春も当委員会の自主運営となります。長野教授をはじめ浜松医大の先生方、教育研修会ご参加の先生方に何かとご迷惑をお掛けするかもしれませんがご容赦下さい。講演はいつも通り6名の講師をお願いして6時間の内容で、日整会教育研修は4単位ですが内容はすばらしいものと期待されます。会場は学術集会と同じアクトシティー、共催は三共(株)にお願いしました。第12回秋期教育研修会は、平成18年9月2日(土)・3日(日)に大正富山医薬品との共催で、東京・高田馬場の大正ホールで行われます。初日の夕方には、恒例となりつつある症例検討会も予定されていますので、奮ってご参加下さい。

教育用ビデオライブラリーですが、第47回日手会のビデオ演題はシンポジウム・一般演題を合わせ全部で21あり、現在ライブラリーに収載すべきもの、修正してOKとするもの、教育用には不適か否か委員会で検討し、最終的に15本が提供されることになりました。提供が遅れ会員諸氏にはご迷惑をお掛けしましてお詫び申し上げます。第48回日手会のビデオは現在検討し修正中です。

一般の整形外科医、形成外科医にも手の外科の勉強の場を提供することも当委員会の役割ですが、手の外科専門医を目指す先生方に教育研修の場を提供するのも重要な仕事です。今後は臨床研修の場を提供したり、ワークショップ形式の勉強会なども行わなければなりません。現在進行している専門医制度の確立に向かい、当教育研修委員会も責任は重大で、専門医制度委員会の各部との連携を密にとっていきたいと思っております。

## 編集委員会

委員長 河井秀夫

日本手の外科学会編集委員会委員は現在、三浪明男（担当理事）、井上五郎、加藤博之、瀧川宗一郎、中村俊康、牧 裕の各先生方と私の7名である。平成17年7月21日、日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会開催時に横浜市で編集委員会を開催、2回目は第49回日本手の外科学会学術集会期間中に開催予定である。

日本手の外科学会雑誌は、投稿論文（学術集会発表論文、自由投稿論文）および依頼論文などを掲載し年6回発刊しているが、日本手の外科学会雑誌第1号は学術集会抄録集であるので、投稿論文は第2号から第6号までの各号5冊に掲載される。

平成17年度の日本手の外科学会雑誌第22巻への総投稿論文数は189編で、和文自由投稿論文16編、自由投稿英文論文3編、和文学術集会発表論文169編、英文学術集会発表論文1編であった。平成17年4月に下関市で開催された第48回日本手の外科学会演題数は320題であったので、学術集会投稿論文数170編は発表演題の中の53%である。学術集会発表論文はできるだけ学術集会での質疑応答内容を取り入れる目的で、学会発表後原則として3週間以内に事務局に提出することになっている。学術集会発表論文であっても8月以降に受理された論文は、自由投稿論文にすることにした。提出された投稿論文は、日本手の外科学会評議員の先生方に専門分野を特定せず、広く割り振られ査読される。学術集会発表論文は、原則座長の先生を含めた査読者2名、自由投稿論文は編集委員を含めた3名で行い、査読結果により書き直しや訂正を求めている。

個人情報保護法が平成17年4月1日から全面施行されたので、外科関連学会協議会において採択された、症例報告を含む医学論文・学会研究会における学術発表における患者プライバシー保護に関する指針である「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」を採用し、「日本手の外科学会雑誌」の投稿規程に遵守することを追記した。また、その指針を投稿規定の最後に挿入することにした。電子投稿やオンラインジャーナル化に向けた検討は、今後とも引き続き必要である。

これからも日本手の外科学会雑誌が日本手の外科学会機関誌として良好に機能するために、日本手の外科学会雑誌編集に対して会員の先生方のご指導、ご支援をよろしくお願いします。

## 機能評価委員会

委員長 今枝敏彦

日本手の外科学会機能評価委員会は現在、藤 哲担当理事のもとで、内山茂晴、沖永修二、楠瀬浩一、澤泉卓哉、和田卓郎と今枝敏彦の6人の委員で構成されております。

今年度の委員会は4回開催され、①Disabilities of the Arm, Shoulder and Handの日手会版（DASH-JSSH）の計量心理学的評価、②QuickDASHの日手会版（QuickDASH-JSSH）の作成とその計量心理学的評価、③手根管症候群質問表日手会版 JSSH version of CTS instrument（CTSI-JSSH）の開発および計量心理学的評価、④手の機能評価表の改訂および出版の4つに取り組んできました。以下報告します。

① DASH日手会版の計量心理学的評価に関し、第48回日本手の外科学会学術集会のシンポジウムで、前委員長の仲尾先生が「DASHの日本語訳とその使用方法の実際」を、今枝が「手根管症候群におけるQOL（DASH, SF-36）と理学検査の反応性の比較」を発表し、DASH-JSSHの計量心理学的評価についてはJ Orthop Sci<sup>1)</sup>に論文が掲載されました（2005年7月）。なお、「手根管症候群にお

- る QOL (DASH, SF-36) と理学検査の反応性の比較」の論文を平田仁前委員が投稿中です。
- ② QuickDASH 日手会版を他の学会からの要請もあり急遽作成しました。Original 以外では 2 番目に作成され、DASH のホームページ (<http://www.dash.iwh.on.ca/>) に掲載されました。それについては前号の日手会ニュース(第25号)に掲載されていますのでご覧ください。これで DASH, QuickDASH とともに download し使用することが可能になりました。QuickDASH 日手会版の計量心理学的評価については現在投稿中で、その内容については第49回日本手の外科学会学術集会にて発表予定です。
- ③ 手根管症候群質問表日手会版は手根管症候群に特異的な QOL 評価表 (Levine DW et al, J. Bone Joint Surg. 75A : 1585-1592, 1993.) ですが、DASH の場合と同様な手順を踏んで日本語版を作成しました。現在、手根管症候群質問表日手会版の計量心理学的評価について手根管症候群患者を対象にデータ収集中です。手根管症候群質問表日手会版の妥当性の結果と反応性の結果も第49回日本手の外科学会学術集会にて発表予定です。
- ④ 手の機能評価表の改訂はかつての機能評価委員会の担当理事・アドバイザー・委員の先生方の御協力を得て、最終段階に至ることができました。今回の改訂版(第4版)はできるだけ使用しやすいように工夫し、日手会のホームページに掲載することができるようになりました。
- 今年度の改訂作業は腱損傷の機能評価(担当:楠瀬委員)、手関節の機能評価(担当:澤泉委員)、末梢神経損傷(特に手根管症候群)の機能評価(担当:内山委員)、再接着手・指および複合損傷手の機能評価(担当:和田委員)、痙性麻痺手の総合評価(担当:和田委員)、腕神経叢麻痺の機能評価(担当:沖永委員)について行われました。改訂作業途中の機能評価1つを除いてすべて改訂版(第4版)に反映されることになりました。さらに、今回の改訂版(第4版)には DASH 日手会版、QuickDASH 日手会版、手根管症候群質問表日手会版のすべてを掲載しました。第49回日本手の外科学会学術集会にその出版が間に合うよう現在奮闘中です(担当:今枝)。
- 1) T Imaeda, S Toh, et al. for the Impairment Evaluation Committee, Japanese Society for Surgery of the Hand: Validation of the Japanese Society for Surgery of the Hand Version of the Disability of the Arm, Shoulder, and Hand (DASH-JSSH) Questionnaire. J Orthop Sci 10(4): 353-359, 2005

## 用語委員会

委員長 岡 義 範

日本手の外科学会用語委員会は平成16年度から日手会用語集改訂第3版の発刊に向けての作業に入っています。

改訂第2版におけるいくつかの誤植・用語の解釈の不備・他の関連用語集との不一致部などについて全評議員に宛てたアンケート調査が行われ、種々のご意見を頂きました。これらの内容を充分検討・斟酌し、第3版に取り入れるべく、委員会にて各用語の再検討を行っています。

その手順は、

1. 2ヶ月に1度の割合で委員会を開催し予定通り順調に第3版への改訂作業が進行。
2. 進捗速度は、1回20ページほどなのであと3回、7月末の理事会までに見直し作業が終わる予定。
3. その後はエクセルのデータの校正を行う予定。
4. また2007年4月山形での学会に合わせて第3版を発刊する予定。

発刊形態については

1. CD化は、規定の方針。CD化に当たっては、日手会のホームページに公表。
2. 冊子として発刊するか否かに関して、これまで通り机上に置いて使うのが便利であり、冊子も必要である事。

3. 冊子の場合、配布法は、学会誌の最後に入れてはせずせるようにする方法なども考える。無料か有料とするかは、事務局と調整の上、理事会に諮り検討する。

以上、現在まで9回の委員会を開催し、逐一、校正・修正用語の検討を行っており、2007年の改訂第3版の発刊に向けて鋭意活動中です。

## 国際委員会

委員長 金谷文則

平成17年度の国際委員会の活動について報告いたします。国際委員会は岡島、柿木、五谷、平瀬、堀井各委員と委員長の私、水関担当理事、山内、別府アドバイザーの計9名で構成されています。本年度は2回の委員会を開催し、他にメールを使った持ち回り委員会で審議しています。

### 1. 新 Corresponding Member の推薦について

平成17年度は該当者無し。今後、Corresponding Member の活動性を調査・評価し、資格継続や65歳を超えている Member に対しては地域性を考慮した上で Honorary Member に推薦するなどの整理を行う予定です。

### 2. JSSH-ASSH Traveling Fellow の選出

Traveling Fellow 2 名に対して、本年度は9名（昨年度3名）の応募があり、石切生喜病院 釜野雅行先生、北海道大学 岩崎倫政先生を理事会に推薦しました。今年度は日手会ニュースに加えて主任教授、各評議員にも呼びかけたところ多くの応募を頂きました。本 Traveling Fellow は日手会の代表であり、より多くの応募者から適当な人物を選ぶことが望ましく、平成18年度も多数の応募を期待しております。

### 3. JSSH-HKSSH Exchange Traveling Fellow の選出

Traveling Fellow 1 名に対して、本年度は3名（昨年度4名）の応募があり、九州大学 光安廣倫先生を推薦しました。引き続き若いドクターの積極的な応募をお願いします。本年度の香港 Fellow, Dr. Hin Keung Wong は4月12-23日滞日予定で、関西、名古屋、浜松を中心に訪問先を検討中です。

### 4. Bunnell Traveling Fellow

2006 Bunnell Traveling Fellow の Dr. Martin I Boyer は今年、来日しない旨の連絡がありました。

### 5. Japan Hand Fellowship

2004年度開催した第5回アジア太平洋手の外科学会および第4回日米合同手の外科学会援助金の残金を併せた国際交流特別基金をもとに、日本手の外科学会学術集会時に APFSSH 加盟国から Fellow を招待する Japan Hand Fellowship を理事会に提案し承認されました。

今回はインドの Dr. Gupta とベトナムの Dr. Hanh を選出いたしました。Japan Hand Fellow は JSSH-HKSSH Exchange Traveling Fellow と異なり日手会として交通、宿泊のアレンジはしませんが、発展途上国の Dr. も多いことから訪問先の先生方には国際交流の観点からご配慮をお願いいたします。

### 6. 第2回目・伊手の外科合同会議への参加の呼びかけ

2006年10月11-14日にミラノで開催されるイタリア手の外科学会の会期中に第2回目・伊手の外科合同会議が開催されます。国際委員会から日本側の moderator, speaker を推薦しております。本会議 Coordinator の Dr. Pegoli が多くの日手会員の参加を呼びかけています。

## 広報委員会

委員長 青木 光 広

平成17年度の広報委員会は6人のメンバーが残留し、堀内行雄理事、3人のアドバイザー（田中寿一先生、藤澤幸三先生、柳原 泰先生）の指導力が発揮され、3回の委員会開催時に多くの仕事を担当することとなりました。

まず例年通り、年2回（第25号、第26号）の日手会ニュースを発行いたしました。

また重要な活動として、日本手の外科学会ホームページ更新の作業を継続しております。懸案でありました、日手会会員専用ページにつきましては、個人情報の管理・著作権の問題、高額な制作・維持費用を考慮し、いろいろな面から検討しました。その結果、最も実施しやすい方法として、他の学会との共同開発を検討しております。平成18年度中に原案を仕上げたいと考えております。その際に、会員のご意見を頂き見直しを済ませた、手の外科パンフレットのDVD版を掲載する予定です。言うまでもないことですが、事務局と共同して学会その他の運営情報を逐次掲載いたします。

第3の活動として、日手会パンフレットの22. リウマチによる手の障害(1)伸筋腱皮下断裂、23. リウマチによる手の障害(2)手指の変形、24. 母指MP関節靭帯損傷、を発行します。25. 合指症、26. 多指症の2部は校正中です。パンフレットの新規作成は30.までで一時的中止とし、すでに発行されたパンフレットの見直しを進めて行きます。平成18年3月に全会員宛にパンフレット見直しのアンケートを配布します。

また、平成19年4月に山形で行われる第50回日本手の外科学会学術集会の第1日目の夕方に記念式典を行うことになりますが、より良い式典になるように広報委員会は荻野教授と検討を重ねていきます。さらに広報委員会では手の外科の発展の歴史を紹介する展示ブースなどを設営する計画です。さらに、懸案であります日本医学会への加盟申請に関しましては、平成17年度の反省を踏まえて早期にアプローチを行っていく予定です。

グッズの販売状況では、ネクタイが相当数はけましたので、新しい柄のものを考えております。

## 社会保険等委員会

委員長 佐々木 孝

医療予算の大幅な縮減が社会にごく当然のこのように受け入れられる中で、手の外科を取り巻く状況も厳しさを増している。社会保険等委員会の活動も従来の外保連活動ならびに日本手の外科学会における健康保険関連セミナーの開催のみにとどまらず、幅広い活動が要求されるようになってきた。平成18年度医療保険改定が大規模なものとなると当初より予測されていたため、平成17年度は、例年よりも新規術式の要望ならびに従来術式の改定要望の厚生労働省への外保連を経由した提出時期が大幅に前倒しとなった。外保連への提出時期が3月末に繰り上げられたのである。このため、平成17年度分の要望書は前期委員会での実質的作業となり、立花前委員長のもと要望書を作成し提出した。

その後これら要望に関しては、外保連より整形外科関連分野で調整するように指示があり、「外保連に関連する整形外科分野の合同会議」が7月および本年2月に開催された。この合同会議は整形外科の統一した要望の中での順位を決定するものであることから非常に重要なものとなってきている。

以上のような例年の活動のほかには本年は突発的で、かつ大量の作業を要する事態が2件存在した。

7月末に厚生労働省より小児医科診療報酬点数表を新設し、一般（成人）と分離することが通達され、外科系部分については外保連が実質作業をすることとなった。現行の医科診療報酬点数表の収載項目のうち、小児医科診療報酬点数表に収載を希望するものを抽出する作業が、8月1ヶ月のみで行

われ、さらに新生児加算や、乳児加算のあり方についての見当も並行して行われた。実務委員会の担当とされ、牧野委員に多大なるご尽力を頂いた。

9月には全国整形外科社会保険審査委員会議に合わせて第2回の委員会を開催した。この数日前に平成18年度からのリハビリテーションの大幅な改編が厚生労働省から内示され、その内容が中枢に高く、末梢には低いという設定であったために、手の外科領域のhand therapyを含むリハビリテーションは非常に低い原案となっていた。この原案は手の外科領域におけるリハビリテーションの重要性、ひいては手の外科の重要性をまったく無視したものであり、手の領域におけるリハビリテーションを崩壊させるものであるとの認識から、わずか5日間の期限内に原案に対する反対要望書の作成ならびに手の外科学会として適正と思われるリハビリテーションの点数体系を、委員全員で急遽作成した。厚生労働省への要望書は期限内に手渡され、幸いにも担当官の理解を得ることができ、平成18年1月に内示された18年度の改定では、運動器リハビリテーションの中における中枢、末梢の別点数化は回避された。

手術術式の新設、改正要望では平成18年に神経交差縫合術の新規収載、舟状骨偽関節手術の前腕区分への変更がほぼ確実となり、数年来の要望活動が結実した形である。

社会保険等委員会は外保連を通じての活動、日本整形外科学会の中での活動、さらには厚生労働省への直接要望活動などを行ってきており、手の外科の重要性を外科系学会全体に認知してもらうこと、また厚生労働省に手の外科の存在を十分理解してもらうことを目標に、単なる保険点数関連問題のみでない幅広い活動を今後も展開していく予定である。

## 先天異常委員会

委員長 福本恵三

平成17年度の先天異常委員会は、柴田 実担当理事、荻野利彦アドバイザー、石川浩三、川端秀彦、高山真一郎、福本恵三各委員で構成されています。

先天異常委員会の主な活動の一つは手の先天異常懇話会の開催です。昨年度は第48回学術集會会期中にランチョン形式で症例検討を行いました。多くのご参加をいただき、各施設から呈示された5症例について活発な討議が行われました。会場で懇話会についてのアンケートを実施し、50人から回答をいただきました。内容についてはほとんどの方から有用でおもしろかったとの回答があり、難易度については適当であったが39人、難しすぎたが4人、易しすぎたが0人でした。形式については自由な症例検討会が良いとのご意見が多数を占めました。時間帯についてもランチョンセミナーの時間を望まれる方が大多数でした。参加者の所属科は整形外科32人、形成外科12人でした。日手会会員に定める整形外科、形成外科の比率（10対1）からみると形成外科医の参加率が高かったようです。上肢先天異常症例の年間手術件数についての質問では10件未満17人、10～49件18人、50件以上3人と比較的初心の方からエキスパートまで幅広い層のご参加をいただいたようです。今後取り上げるテーマとして希望する疾患について多かったのは母指形成不全14人、横軸形成障害12人、絞扼輪症候群10人などでした。これらのご意見を踏まえて、今度の懇話会をより良いものにしていきたいと考えております。次回の第45回手の先天異常懇話会は、第49回学術集會会期中ランチョンの時間帯に症例検討会形式での開催を予定しております。ぜひ多くの皆様にご参加をいただき、学会発表とは異なる雰囲気できくばらんに先天異常症例について語り合っていたいただきたいと思います。

先天異常術後の評価基準については、昨年完成した母指多指症に続いて合指症術後の評価基準を現在作成中です。原案が出来上がり試用の段階に入っております。

先天異常症例の登録については登録者ごとの登録内容をデータベース化したものをお渡しする事や、インターネットを用いた簡便な登録法などを検討しています。登録していただいた方の利益となるよ

うな方式を作りたいと考えております。引き続き各施設からのご登録をお願いいたします。

先天異常相談システムの設置を検討して参りましたが、現時点では個人情報保護、セキュリティ等の問題があり、日手会単独で行うのは問題があるとの合意を得ました。実現には今しばらく時間が必要と思われます。各委員への個人的な症例相談はいつでも受け付けますのでお気軽にご連絡ください。

先天異常委員会では、懇話会開催などの先天異常分野における活動を通して日手会発展の一助となるよう努力して参ります。今後ともご指導、ご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

## 倫理委員会

委員長 浜田良機

日本手の外科学会では、①同種移植に際しての倫理的問題、②会員の不祥事あるいは犯罪に対する対応、③患者のプライバシーの保護、④事務局に保管されている会員個人情報の管理について検討することを主たる目的として、平成16年に倫理委員会の創設を理事会で決定しました。その決定をうけて、担当理事として三浪明男、委員長浜田良機、委員として浅見昭彦、鈴木茂彦、平田 仁、梁瀬義章、渡邊健太郎、アドバイザー玉井 進の各先生方による第一回委員会が平成17年6月3日に、そして第二回倫理委員会が同年9月16日に開催され、①学会発表、投稿論文での個人情報の保護、②会員の不祥事、犯罪への対応 ③事務局での会員の個人情報の取り扱い、④同種移植、再生医学への倫理的規範の作成について検討を開始しました。

①の問題については、外科学会関連協議会で採択された「症例報告を含む医学論文及び学会発表、研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」が、現状にもっとも即したのものとして、これを会員に周知するよう理事会に提案、平成17年7月30日に開催された理事会で承認されました。すでに学会ホームページに掲載され、投稿規程にも明記されていますので、発表、投稿に際しては是非この規程を遵守していただくようお願い致します。②については、一般には学会がその情報を得るのは、逮捕あるいは告訴を受けたあとのことが多く、そのため日整会では医道審議会の決定をうけて処分を行っています。しかし本学会では、本人が退会の手続きを行っていても、事件が判明した日時にさかのぼって除名処分とすることが決定されました。また③については、日整会での取り扱いに準じて対応することが了承され、その対応として事務局であるヒズ・ブレインと日本手の外科学会との間に覚え書きを交わすことが提案されました。そして事務局で作成した資料について検討、その覚書に関する書類の内容について妥当として、承認しました。②、③の懸案についてもすでに理事会で承認されています。今後の委員会での課題は、同種移植、再生医療に関する倫理規定の作成であります。この問題は、多くの他の学会でも重要なものとして審議されています。したがって手の外科学会では、これら他学会での審議の内容と進捗状態を参考にしつつ討議を継続することが決定されています。この問題点については、会員の考え方も大いに参考にしなければならないと思っておりますので、忌憚のないご意見をお寄せ下さい。

## 専門医制度委員会

委員長 中村 蓼 吾

立春を過ぎ春らしい日待ち焦がれるこの頃です。専門医制度委員会は専門医制度部会（担当 斎藤英彦理事、三浪明男理事、別府諸兄委員長）、資格認定部会（担当 藤 哲理事、中島英親委員長）、専門医試験部会（担当 落合直之理事、水岡隆也理事、和田卓郎委員長）、教育研修カリキュラム部会（担当 柴田 実理事）、施設認定部会（担当 堀内行雄理事、吉村光生理事）と5つの部会

で構成しています。制度実施に対応した部会構成であります。各部会の討論を踏まえ、仙台でのマイクロサージャリー学会の際（2005年12月1日）、各部会の代表者会議を開催し、残った問題点や修正点を討論し、多くの点で意見の一致を見ました。さらに本年1月7日、8日に理事会を行い最後の詰めを制度発足スケジュールも検討しました。浜松での第49回日本手の外科学会までには全会員に成案を提示し、賛同が得られれば発足いたしたいと考えています。骨子は従来案と変わりなく、2年間の移行期間中は評議員、名誉会員、特別会員は手の外科の論文が5編以上あり、1編は査読のある雑誌に掲載されたものであり、日本手の外科学会雑誌に3編以上の掲載が在れば取得できます。また会員歴10年以上の正会員ではこれら論文と60症例の一覧表さらにうち10例については病歴要約を提出すれば取得できます。但し症例は定められた11項目中6項目以上に該当する必要があります。以後は筆答、口答の試験を受けていただくこととなりますが、正会員歴5年以上の整形外科または形成外科専門医であり、一定以上の研修歴、手術経験、研修実績がある先生に受験資格があります。

制度発足により社会対応がしやすくなるのが最大の利点です。

専門医制度、試験を行うにあたって、受験者が日本整形外科学会にくらべはるかに少なく、経済的に継続できるか心配します。移行措置で専門医になれる先生には相応のご負担をお願いしなければと思います。この点ご了解いただければ幸いです。また経済的に年一度の試験が困難となれば2年あるいは3年に一度の試験となることをお含み下さい。以上専門医制度発足に向けての現状を報告するとともに制度の維持のためをお願いをする次第です。

## Hand Surgery 編集委員会

委員長 生田 義和

平成14年5月に編集室が香港から日本へ移りまして約4年が経過し、この間投稿論文数が年々増加しています。現在までに発刊した雑誌は7冊で、応募論文総数は245編（平成18年3月23日現在）となりました。このうち、採用は139編、不採用は72編、校正中が20編、査読中が14編です。従来の年間発刊数を2冊から3冊に増刊することが一昨年からの大きな課題でしたが、APFSSH各国に購読交渉を働きかけた結果、購読部数を増加することができそうで、2006年度より現行の購読料のまま、年3冊発刊が可能となりました。これを受けて、日本に移転後はReview Systemが確立したとの評価を得ていましたが、さらなる充実を図るため、昨年7月に委員会を開催し、改めて査読・編集方針の見直しを行いました。

まず、査読者数の見直しを行いました。当初、日本国内の9名の先生を主査読者、本邦以外の11名の先生に副査読者をお願いしていましたが、投稿論文数および発刊数増加にともない、ひとりあたりの査読分量がさらに多くなることが予想されますので、主査読者を日手会の国際委員と編集委員から、副査読者は現在のメンバーに推薦をお願いして、それぞれ増員しました結果、主査読18名、副査読24名で比較的スムーズに審査が行われ、Editor-in-Chiefの私と、Assistant Editorの別府先生とで最終的に判断しています。

次に、査読審査方法の見直しを行いました。単純に一定水準に達している論文を中心に採用していくのではなく、症例数が少なくても読者に益する論文などは積極的に採用できるように審査基準の改変を行い、投稿規定も一部改定しました。

当初はAPFSSH各国からの投稿論文がほとんどでしたが、最近は米国や欧州からの投稿も頻繁に見られるようになりました。今後の課題は、掲載論文内容の充実と、本誌のさらなる質の向上です。是非、日本手の外科学会会員の先生方に多くの論文を投稿していただき、より良い雑誌に成長する努力をしていくつもりですのでご協力の程、よろしく願いいたします。

## 2005年度 IFSSH 代表者会議報告

阿 部 宗 昭

2005年度 IFSSH Delegates Committee Meeting は2005年 6月16日, スウェーデンの Göteborg で第10回 FESSH (ヨーロッパ手の外科学会) の会期中に16カ国の delegates と, FESSH, IFSHT (国際ハンドセラピー学会) の代表の参加の下で開催された。以下, その概要を報告する。

### 理事長 (Pardini) 報告

1. 国際ハンドセラピー学会は Budapest(2004) では local society がないため困難であったが, 2010年のソウルではハンドセラピーの local society を立ち上げて開催される予定である。
2. 中国とロシアから入会に関する問い合わせがあった。両国はまだしっかりした local society がないようなので, 両国を訪問してから検討したい。
3. IFSSH には32の委員会があるが, 活動報告をしていない委員会があるので, 委員長には2006年12月までに報告するよう依頼した。Sydney の学会時には活動報告が出せると思う。

### 事務局長 (Mennen) 報告

Urbaniak に代わって Mennen が事務局長となったこと, 今後3年間の役員が紹介された。

President : Arlindo Pardini (Brazil)

Secretary-General/Treasurer : Ulrich Mennen (South Africa)

Immediate Past President : Guy Foucher (France)

President Elect : James Urbaniak (USA)

Secretary-General Elect : Michael Tonkin (Australia)

Historian : William Cooney (USA)

Administrator : Fran Perkins

### New Member Society

Chilean Society for Surgery of the Hand がメンバーに加わり, 加入メンバーは50となった。

Tunisia, China, Guatemala が興味を示してるがまだ入会はしていない。

### 9<sup>th</sup> Congress 2004 (Budapest, Hungary)

70カ国から1400名以上の参加があった。500題を超える oral paper があり, poster も500を越えた。キャンセルは3題のみで成功裡に終了し, IFSSH へ1800ドルの寄付があったことに感謝の意が表された。

### 10<sup>th</sup> Congress 2007 (Sydney, Australia)

2007年3月13日~17日, Roland Hicks 会長の下, シドニーで開催予定。

演題応募のメ切り: 2006年8月1日

詳細は Congress website (<http://www.hands2007.com/>) で。学会の registration brochure は2006年3月頃に送られるとのことである。テーマは "Hand in Hand", IFSSH と IFSHT (ハンドセラピー) との初めての combined congress となるようである。

### 11<sup>th</sup> Congress 2010 (Seoul, Korea)

会長 Prof. Moon Sang Chung, 日時未定

Congress website (<http://ifssh2010.com/>) 2006年に open 予定

12<sup>th</sup> Congress 2013

Brazil の Eduardo R Zancolli から南アメリカ（ブラジル，アルゼンチン）として Buenos Aires で開催したいとの proposal があった。India, AAHS からの申し出もあるようだが delegates は来ていなかった。2007年のシドニーで正式決定される予定。

## IFSSH Educational Bursary

Developing country の手の外科医育成のために  
教育基金（年10,000～20,000 \$）を作って援助してゆくことが決まった。

## IFSSH の Website

[www.ifsshwebsite.com](http://www.ifsshwebsite.com)

## JHS : Advertisement and Information

IFSSH は JHS (Am と Br) に information page を持っているので member はこれを利用できる。

## Pioneers in Hand Surgery

Budapest の学会で以下の 7 名が榮譽を受けられた。

Tadao Kojima, Japan  
Antal Renner, Hungary  
Martin Singer, South Africa  
Ramaswami Venkataswami, India  
Albrecht Willhelm, Germany  
Yutaka Yabe, Japan  
Yasuo Yamauchi, Japan

日手会の名誉会員，児島忠雄，矢部 裕，山内裕雄の 3 先生が Pioneer in Hand Surgery となられた。私もこの表彰式にでていたが，日本からの参加者は皆，誇らしく思ったことと思う。

## Swanson lecture

Sydney の学会から Swanson lecture の session が設けられることとなり，speaker は人選中とのことであった。

前 Delegate の山内裕雄先生から代表を引継いで，初めて 1 人で代表者会議に出席した。会議中は必ずしも理解できないこともあったが，後に議事録が送られてきたので，それも含めての会議の概要である。次回は本年 6 月 28 日 FESSH が開かれる Glasgow (Scotland) で開催されるので，本ニュースで報告させていただきます。

## 第 2 回日伊ハンドクラブへのご招待



Dear Colleagues and Friends,

Already more than a year has past since the first combined meeting of Japanese Italian Hand Club

in Osaka was held. It was a great success. Since then we have been working with great enthusiasm to welcome all of you and Your Society in Milan in October 2006, during the National Meeting of the Italian Society for Surgery of the Hand. It will be surely a great chance to exchange first of all knowledge on hand surgery but also to enjoy Italy, its food, culture and friendship.

Shortly the definitive program will be published on line ([www.sicm.it](http://www.sicm.it)).

The main titles of the meeting will be Malformations and New Technologies and Materials. The former has always being a challenge for the hand surgeon while the latter has showing more and more interest in the last years thanks to the fast growing of innovations.

To the meeting will attend about 500 participants from all over Italy as well as from France, England, Germany, Spain, United States and other European countries.

During the conference will be also held the National meeting of Hand Therapist Association and for the first time the National Meeting of the recently born Hand Nurse National Association.

As you can read there will be no chance to get bored considering also the social program we are working at to make you spend the best time possible here with us.

So please get your luggage ready Italy is waiting for you to make you feel at home

Loris Pegoli, MD

Member Organizing Committee of the 44<sup>th</sup> National Meeting of the Italian Society for Surgery of the Hand  
(詳細は23ページをご参照ください)

## 第6回 APFSSHのご案内

国際委員会 担当理事 水 関 隆 也

早いもので、大阪で熱く語り合った第5回APFSSH（生田会長）から1年半が過ぎ、もう半年先の11月15日(水)～18日(土)には第6回の会議がバンコクで開催される時期となりました。

今は既に楽しかったことばかり思い出されますが、当時の組織委員会は様々な難題を抱え東奔西走でした。そんな中、APFSSHの友人たちはいろいろな面でサポートしてくれ、当日にはあれほど大勢で参加してくれました。タイの友人たちも例外ではありません。

今度は、我々ができるだけ多く参加し、旧交を温めるとともに、是非ともこの学会をさらに盛り上げたいものです。日手会会員諸兄姉には、多数の演題のご応募、ご参加をお願い申し上げます。演題の締切は5月31日ですので、日手会が終わってからでも間に合います。

なお、詳細はこのニュースの23ページをご参照ください。また、ホームページは日手会ホームページからもリンクできますが、場合によっては画面が開くのにかかることがありますのでご承知置きください。

## .....お知らせ.....

### 手の外科研修施設一覧

研修内容などの詳細は日手会ホームページをご覧ください。

研修希望者は各研修施設に直接申請、交渉を行ってください。教育研修委員会および日本手の外科学会は研修医の申請、および研修に関しては一切、関与いたしません。

施設番号	施設名	研修責任者	住所	TEL
1	北海道大学医学部附属病院整形外科	三浪明男	〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目	011-716-1161
2	大阪労災病院	橋本英雄	〒591-8025 堺市長曾根町1179-3	072-252-3561
3	山口県厚生連小郡第一総合病院	土井一輝	〒754-0002 山口市小郡町下郷862-3	083-972-0333
4	新潟手の外科研究所	吉津孝衛	〒950-0965 新潟市新光町1-18	025-283-0306
5	東京手の外科/スポーツ医学研究所	山口利仁	〒192-0002 八王子市高月町360	0426-92-1115
6	埼玉手の外科研究所	児島忠雄	〒355-0072 東松山市石橋1721	0493-23-1221
7	聖隷浜松病院 手の外科・マイクロサージャリーセンター	斎藤英彦	〒430-8558 浜松市住吉 2-12-12	053-474-2222
8	鈴鹿回生病院	藤澤幸三	〒513-0836 鈴鹿市国府町112-1	0593-75-1212
9	医療法人あかね会 広島手の外科・微小外科研究所	津下健哉	〒730-0811 広島市中区中島町4-11 中島ビル3階	082-544-1227
10	大阪厚生年金病院	正富 隆	〒553-0003 大阪市福島区福島4-2-78	06-6441-5451
11	名古屋掖済会病院整形外科	渡邊健太郎	〒454-0854 名古屋市中川区松年町4-66	052-652-7711
12	弘前大学医学部附属病院整形外科	藤 哲	〒036-8562 弘前市在府町5	0172-33-5111
13	広島大学整形外科	越智光夫 石田 治	〒734-8551 広島市南区霞1-2-3	082-257-5232
14	奈良マイクロサージャリー・手の外科研究所（西奈良中央病院内）ならびに奈良県立医科大学整形外科	玉井 進	〒631-0024 奈良市百楽園5-2-6 （西奈良中央病院）	0742-43-3333
15	新潟県立瀬波病院リウマチセンター	石川 肇	〒958-8555 村上市瀬波温泉2-4-15	0254-53-3154
16	山口県立中央病院	酒井和裕	〒747-8511 防府市大字大崎7	0835-22-4411
17	愛野記念病院	貝田英二	〒854-0301 長崎県南高来郡愛野町3838-1	0957-36-0015
18	慶應義塾大学病院整形外科	池上博泰	〒160-8582 東京都新宿区信濃町35	03-3353-1211
19	信州大学整形外科	加藤博之	〒390-8621 松本市旭3-1-1	0263-37-2659
20	大阪医科大学整形外科	阿部宗昭	〒569-8686 高槻市大学町2-7	072-683-1221
21	名古屋大学医学部附属病院手の外科	平田 仁	〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65	052-744-2957

## 日本手の外科学会第12回秋期教育研修会

会 期：平成18年9月2日(土)，3日(日)

会 場：大正製薬株式会社本社ホール  
東京都豊島区高田3-24-1

企 画：日本手の外科学会教育研修委員会

※日本整形外科学会，日本形成外科学会の教育研修講演単位として申請の予定です。

共 催：大正富山医薬品株式会社

受 講 料：20,000円（テキスト代，2日目の昼食代，症例検討会を含む）

※日整会教育研修会受講料は別途

症例検討会：第1日目の終了後，問題症例などについて討論する症例検討会を開催いたします。  
症例を提出されたい方は予め事務局宛ご連絡ください。※軽食を用意いたします。

申込方法：官製はがきに氏名・連絡先住所・連絡先電話番号/ファックス番号・メールアドレス・勤務先・卒業年度をご記入の上，下記宛お申し込みください。

申込締切：7月末日 ※先着200名とさせていただきます。

申 込 先：〒468-0063 名古屋市天白区音聞山1013 (有)ヒズ・ブレイン内

日本手の外科学会事務局「日手会第12回秋期研修会係」宛

TEL 052-836-3511/FAX 052-836-3510

## プログラム(予定)

### 9月2日(土) 第1日目

13：55～	開会式	
14：00～15：00	開放創の処置	石川 浩三（大津赤十字病院形成外科）
15：10～16：10	陳旧性腱損傷の治療	牧 裕（新潟手の外科研究所）
16：20～17：20	上肢先天異常の治療	堀井恵美子（名古屋大学手の外科）
17：30～	症例検討会	

### 9月3日(日) 第2日目

8：50～ 9：50	末梢神経	根本 孝一（防衛医科大学校整形外科）
10：00～11：00	指骨，中手骨，橈・骨骨折の治療	清重 佳郎（済生会山形済生病院整形外科）
11：10～12：10	手の拘縮	堀内 行雄（川崎市立川崎病院整形外科）
13：00～14：00	手の機能解剖	三浪 明男（北海道大学整形外科）
14：10～15：10	関節リウマチ	石川 肇（新潟県立瀬波病院リウマチセンター）
15：10～16：10	手の良性腫瘍	田崎 憲一（荻窪病院整形外科）
16：20	閉会の辞，修了証書交付	

## 日本手の外科学会 教育研修ビデオライブラリー

第49回日本手の外科学会会期中に閲覧いたします。

希望者(会員に限る)には実費(1本3,000円)で頒布いたしますので、事務局へお申し込みください。

巻数	タイトル	講師
1	腱移行術	津下 健哉
2	手の外科医に必要な皮弁の挙上法	土田 芳彦 他
3	橈骨遠位端骨折に対する種々の手術的治療法	斎藤 英彦 他
4	鏡視下手根管開放術	奥津 一郎 他
5	手関節鏡	玉井 和夫 他
6	Dupuytren 拘縮の手術 有茎血管柄付き DIP 関節を利用した指 PIP 関節再建のコツ	福居 顕宏 黒島 永嗣
7	Herbert Screwによる舟状骨偽関節手術	井上 五郎
8	腕神経叢損傷全型麻痺の再建手術： Double Free Muscle Transfer法(新版)	土井 一輝
9	リウマチ手関節の手術	政田 和洋
10	母指再建術①②	川端 秀彦 他
11	母指再建術③④	稲田 有史 他
12	遊離筋膜脂肪弁移植を用いた先天性近位橈尺骨癒合症の授動術	金谷 文則
13	手の外科手術手技 (1)	津下 健哉 木森 研治
14	手の外科手術手技 (2)	津下 健哉 木森 研治
15	手の外科手術手技 (3)	津下 健哉 木森 研治
16	手の外科手術手技 (4)	津下 健哉 木森 研治
17	指切断の被覆法	土井 一輝 他
18	手の外科手術手技 (5)	津下 健哉 木森 研治
19	手の外科手術手技 (6)	津下 健哉 木森 研治
20	手の外科手術手技 (7)	津下 健哉 木森 研治
21	Kienböck病の手術	安田 匡孝 他
22	PIPJ骨折牽引療法 指尖部切断再接着 尺側手関節部痛に対する尺骨楔状短縮骨切り術	黒島 永嗣 服部 泰典 吉田 竹志
23	手の外科手術手技 (8)	津下 健哉 木森 研治
24	手の外科手術手技 (9)	津下 健哉 木森 研治
25	手の外科手術手技 (10)	津下 健哉 木森 研治

## 会員特別頒布のご案内

日本手の外科学会では、各委員会にお願ひし、会員の活動に役立つ種々の事業を進めております。ご希望の会員には、実費で頒布いたしますので事務局宛お申し込みください。

在庫に限りのあるものもございますので、ご希望の方はお早めにお申込ください。

**教育研修ビデオライブラリー 全25巻（各3,000円（税込）：送料込）** (教育研修委員会)

**手の外科学用語集 改訂版第2版（南江堂）（1冊3,675円（税込）：送料込）**

日手会誌への投稿だけでなく、日常のいろいろな場面で役立つ用語集が改訂版第2版として発売になっております。 (用語委員会)

**ネクタイ（1本 3,000円；送料200円）数量限定**

スーツとも相性も良く、大好評です。デザインは日手会ホームページ上でご覧いただけます。数には限りがありますのでお早めにお申込みください。 (広報委員会)

**タイタック、ネクタイピン、ハットピン（1個800円；送料200円）数量限定**

故藤巻悦夫先生が第42回日手会の際、記念品として作成されたものをメモリアルとして復刻させました。是非とも学会にお出かけの際などにお付けください。 (広報委員会)

**携帯ストラップ 3種（1個600円；送料100円）数量限定**

携帯電話の画面を拭く便利なストラップを作成しました。グー・チョキ・パーの3種類でお手頃価格となっております。お土産などにも是非どうぞ！ (広報委員会)

## 関連学会・研究会のお知らせ

### ★第45回手の先天異常懇話会

問題症例などを持ち寄っていただき自由に討論する会です。多くの方々の参加をお待ちしております。会の進行を円滑に行うため、呈示していただく症例数と概要をあらかじめ把握しておく必要がありますので、前もって応募していただくようお願いいたします。発表された症例は懇話会での症例検討の内容を含めた簡単なまとめ（原稿用紙2枚、図2～3枚）を後日提出していただき、日手会誌に掲載いたします。

会 期：平成18年4月20日(木) 12:15～13:15

会 場：第49回日手会学術集会 第6会場

会 費：1,000円 ※昼食を用意いたします

応募方法：平成18年3月末日までに郵送またはe-mailで症例の概要を写真と共に下記あてお送りください。なお、症例数の関係で当日検討できなかった症例につきましては、先天異常委員会で検討のうえ、後日報告させていただきます。

郵 送 先：〒355-0072 埼玉県東松山市石橋1721 埼玉成恵会病院・埼玉手の外科研究所  
担当：福本恵三 E-mail: handsurg@seikei.or.jp

世 話 人：日本手の外科学会先天異常委員会 委員長 福本恵三

※当日はPCによるプレゼンテーションになります。各自PCを持参してください。

プロジェクターとの接続には、一般的な15ピンのコネクタ以外は対応不能ですので、必要に応じて変換ケーブルを、またPCのトラブルに備えてプレゼンテーションをCD-ROMまたはUSBメモリーで持参してください。スライドによる発表は受付いたしません。

※発表時間は5分です。発表者の方は必ず時間までに会場受付にお越しください。

### ★第29回末梢神経を語る会

会 期：平成18年4月21日(金) 18:00～20:00

会 場：浜松市／アクトシティ浜松 コンgressセンター41会議室

テ ー マ：肘部管症候群、手根管症候群重症例における腱移行術の適応と手術手技

プログラム：1. 肘部管症候群 司会：金谷 文則，加藤 博之

1) 肘部管症候群の重症例の電気診断と腱移行術の適応

信田 進吾（東北労災病院）

2) 肘部管症候群の重症例に対する Neviasser 法の手術手技と術後成績

根本 孝一（防衛医科大学校）

3) 肘部管症候群に対する機能再建術

斎藤 英彦（聖隷浜松病院）

2. 手根管症候群 司会：池田 和夫，加藤 博之

1) 手根管症候群重度例の術後成績と母指対立再建術

長岡 正宏（駿河台日大病院）

2) 高齢者の重度手根管症候群に対する一期的腱移行の意義

日高 典昭（大阪市立総合医療センター）

3) 手根管症候群重度例に対する Camitz 変法

金谷 文則（琉球大学）

当番世話人：金谷 文則，加藤 博之，池田 和夫

★日本手の外科学会第12回春期教育研修会

会 期：平成18年4月22日(土)  
 会 場：浜松市／アクトシティ浜松  
 問合せ先：〒468-0063 名古屋市天白区音聞山1013 (有)ヒズ・ブレイン内  
 日本手の外科学会事務局  
 TEL 052-836-3511 FAX 052-836-3510  
 E-mail：info@jssh.gr.jp

★第46回日本先天異常学会学術集会

会 期：平成18年6月29日(木)～30日(金)  
 会 場：山形市／山形テルサ  
 会 長：荻野 利彦 (山形大学整形外科)  
 問合せ先：〒990-9585 山形市飯田西2-2-2 山形大学整形外科学教室内  
 TEL 023-628-5355 FAX 023-628-5357  
 E-mail：seikei@med.id.yamagata-u.ac.jp  
<http://www.id.yamagata-u.ac.jp/Orthopedic/Ortho.html>

★The 9th International Conference on Limb Development and Regeneration (ICLDR)

会 期：平成18年7月24日(月)～28日(金)  
 会 場：兵庫県／淡路夢舞台国際会議場  
 組織委員長：井手 宏之 (東北大学大学院), 野地 澄晴 (徳島大学)  
 詳細は：<http://evodevo.bio.tokushima-u.ac.jp/>

★The 2nd Japanese-Italian Hand Club

会 期：平成18年10月11日(火)～14日(土)  
 会 場：イタリア／ミラノ  
 演題募集：[http://www.studioprogress.it/SICM/abstract\\_eng.asp](http://www.studioprogress.it/SICM/abstract_eng.asp)  
 平成18年5月1日締切  
 (Invitation Letter：16ページ参照)

★第33回日本マイクロサージャリー学会

会 期：平成18年10月27日(金)～28日(土)  
 会 場：奈良市／奈良県新公会堂  
 会 長：矢島 弘嗣 (奈良県立医科大学整形外科)  
 問合せ先：〒634-8522 橿原市四条町840 奈良県立医科大学整形外科学教室  
 TEL 0744-29-8873 FAX 0744-25-6449  
 E-mail：micro33@naramed-u.ac.jp  
<http://www.naramed-u.ac.jp/conv/micro33/>

★6th Congress of APFSSH

会 期：平成18年11月15日(水)～18日(土)  
 会 場：タイ／バンコク シャングリラホテル  
 会 長：Panupan Songcharoen  
 演題締切：平成18年5月31日(水)  
 参加登録：5月31日まで 350US\$  
 詳細は：<http://www.apfssh2006.org/>

★10th Triennial Congress of the International Federation of Societies for Surgery of the Hand (IFSSH) & 7th Triennial Congress of the International Federation of Societies for Hand Therapists (IFSHT)

会 期：平成19年3月11日(日)～15日(木)

会 場：オーストラリア／シドニー The Sydney Convention and Exhibition Centre  
organising Committee Chair: Roland Hicks (IFSSH) Rosemary Prosser (IFSHT)

詳細は：<http://www.hands2007.com/>

Invitation from the Organising Committee

The Organising Committee of the 2007 IFSSH Congress invites our Japanese hand surgery colleagues to join us in Sydney. The preliminary programme, containing the registration brochure and call for abstracts submission, is now available. Further information can be obtained via the IFSSH website - <http://www.hands2007.com/>

★7th World Symposium on Congenital Malformation of the Hand and Upper Limb

会 期：平成19年3月9日(金)～10日(土)

会 場：オーストラリア／シドニー Four Points by Sheraton

Convenor：Michael Tonkin

演題締切：平成18年10月5日(木)

参加登録：12月15日まで 550AU\$

詳細は：<http://www.worldcongenital2007.com/>

Invitation from Convenor

The 7th World Symposium on Congenital Malformation of the Hand and Upper Limb will be held on 9th and 10th March, 2007 at the Four Points by Sheraton Hotel, Darling Harbour, Sydney. This meeting precedes the IFSSH meeting from 11-15 March, 2007 which will also be held in Darling Harbour at the Sydney Convention and Exhibition Centre, adjacent to the Sheraton. The congenital sessions of the IFSSH meeting will be held on Monday, 12th March.

I hope you can make it to Sydney. Information regarding the meeting will be available on [www.worldcongenital2007.com](http://www.worldcongenital2007.com) from next week. Please advertise this amongst those who might be interested in coming.

## 編集後記

豪雪の冬もようやく終わり、第49回日本手の外科学会がいよいよ間近に迫ってまいりました。皆様、春爛漫の浜松に集いましょう。来年は日手会50周年です。現在、広報委員会が中心になって記念式典の準備を進めております。応援・ご協力をよろしくお願い致します。(文責：高原政利)

### 広報委員会

(担当理事：堀内行雄 アドバイザー：田中寿一、藤澤幸三、柳原 泰  
委員長：青木光広 委員：池上博泰、香月憲一、砂川 融、高原政利、戸部正博)